

皆様今晚は。自由民主党の谷垣禎一です。

今日で今年最後の国会が終わりました。そこで、自由民主党のシャドーキャビネットのメンバーと一緒にこの一年間を振り返って、自民党の主張を訴えようということで街頭演説会を持たせていただきました。今日は大変寒い日になりまして、この寒さの中、皆さん足をとどめて、耳を傾けていただいている。本当に有り難く思っております。

今年は、実は 289 日間、国会を開きました。この 20 年間くらいでは一番長い期間、国会で議論をした年になりました。何でこういうことになったのかは言うまでもありません。3月 11 日の東日本大震災、そしてその後も台風による大きな被害、自然災害がありました。そして国際的に見まして、欧州から起こった金融危機、これをきっかけにして大変な円高が起きました。国会でしっかり議論をしなければいけないということで 289 日という長期間にわたって国会を開いてきたわけです。今度の臨時国会も確かに復興のための3次補正は通すことができました。それから復興庁法案であるとか、被災地に特区を作って早く復興させていこうという特区の法案であるとか、二重ローン、つまり震災が起こる前に借金をして店舗を建てたけど震災が起こってしまってそれが全部つぶれてしまった。店を建て直すためにはまた借金をしなければならない。そういった人たちにどうやって頑張ってもらえるかという法案、いろいろ通しました。私どもも協力をしなければいけないということで、議員立法を提案したり、いろんなことをしたから、そういった法案は確かに通りました。

しかし、皆さま方にご報告するには大変残念なことなのですが、それ以外のことは見るべきことがほとんどなかった。政府から、大変な円高、金融危機に取り組む本格的な対応はほとんど出てきませんでした。また、復興財源を捻出するためにも公務員の給料を削減しなければいけない。この法案も結局労働組合に反対されて、政府はその成立を断念してしまいました。このように本当に今国民生活に必要な法案が出てこない。これはもう本当に民主党はだらしなかつたと思います。

そして今日は、一川防衛大臣、山岡消費者問題担当大臣、この2人に対して私どもは問責決議案を提出しまして、野党全党が一致して参議院で問責決議案を通しました。一川さんは、あのような軽率な発言を繰り返し、部下もしっかり監督できない。ということは、大事な沖縄の普天間問題をあの人は解決しなければならないのに、それを解決する能力も、力もなくなったということを意味しているのです。そして山岡さんも、消費者問題担当大臣でありながら、マルチ業者の問題について、まるで自分がマルチ業者の宣伝大臣みたいな言動を繰り返してきた。この2人はもう辞めてもらわなければなりません。総理は、まだ職にとどまって職責を果たしてもらいたいというようなことを言っていますが、参議院の意思が明確に出た以上、そのような選択を野田総理がするわけには絶対にいかないだろうと思います。なぜなら、このような経済が厳しい時、震災復興を頑張らなければならない時、このような問題がある大臣を抱えて先へ進んでいけるは

ずがないのです。

また、残念ながら指摘しなければならないことは、野田政権はこういった問題を解決していく緊張感を欠いている。なぜ野田政権が緊張感を欠いているのか。今から振り返ると、鳩山政権、菅政権も随分めっちゃくちゃなことをしましたけれども、自民党政権と違うことをしなければという緊張感は彼らにはありました。しかしやってみたら、鳩山さんは「最低でも県外」という発言が象徴しているように、自民党と違うことをやろうとしたけれども、結局それはできなかった。菅さんに至っては、政治主導ということで原発に対する冷却水を入れるか入れないかということまで自分で指示をしようとしたけれども、結局そんなことはできなかった。それで民主党政権は、自分たちは何をやっていく政権なのかという自信を失ってしまって、どういう使命を負ってこれから日本を引っ張っていくかというアイデアがなくなってしまった。それが今の野田政権なのです。だからこのような緊張感を欠いたことが起こってくる。このことは厳しく糾弾しなければなりません。

私ども自民党は野田政権、民主党政権の政策では日本は明るくならないと考えています。野田さんは、子ども手当だとか、農家戸別所得補償だとか、あるいは高速道路の無料化とか、皆さんからいただいた税金をばらまくのは熱心です。分配には熱心です。しかし分配ばかりしていて日本が良くなるでしょうか。日本の良いところを見つけて、伸ばしていくという発想が民主党政権には極めて弱い。私ども自民党は、やはり日本の良いところを伸ばしていく政策をどんどん打ち出していきたいと思っています。

日本の良いところは何か。このあいだ、ブータン国王陛下がお出でになって、国会の演説で日本を褒めてくださいました。あまり褒めていただいたので、お尻がモゾモゾするような気持ちもしないではなかったですけども、ブータン国王がおっしゃったことは、これだけの大災害を受けながら、日本人は地域、地域の絆の力を取り戻して、自ら自分たちの地域を立て直そうという気概にあふれている。このことをブータン国王陛下は褒めてくれたのです。日本がこの明るさを取り戻すためには、皆さんからいただいた税金に「親方日の丸」と言ってぶら下がるような政策では絶対にうまくいきません。もう一回、日本人の絆を取り戻して、自分たちの足で立つんだという政策をどんどんやっていかなければいけないのではないかと私は思います。

残念ながら今年もう国会が終わってしまいました。政府ではこれから予算編成、そして来年度の税制に取り組みます。一番の問題は、野田総理はこの過程の中で、消費税を上げるという方針を打ち出してきました。私ども自民党は今年の参議院選挙で、日本の今の財政状況、つまり税収よりも赤字国債の発行額が多いような状況はいつまでも続けるわけにはいかないから、当面 10%ぐらいの消費税は必要だと言って戦ってきました。私どもは今までそういうことを皆さんにお訴えをしてきました。だから私どもが皆さんに消費税をお願いするというのは理屈が通るのです。

ところが野田さんが消費税率アップを言う資格はあるのか。野田さんには言う資格はないと思います。野田さんがなぜ内閣総理大臣の椅子に座っているのか。2年3カ月前の総選挙で、野田さんの仲間の方が大勢当選をして、そして国会で内閣総理大臣は野田さんだと指名をしたからです。その方たちは、消費税は要らないというマニフェストで戦ってきた。野田さんご自身もあの時の選挙では、この任期中に消費税を上げるとは反対だと言って当選してきた。安住財務大臣もそのように言って当選してきた。だから野田政権には消費税率アップを提起する資格がないのです。もし野田政権がそれを必要だと言うならば、消費税率アップを正直に訴えて、解散して出直してこなければならぬと私は思います。

復興の基本的な仕組みはだいたいできてきましたが、まだまだ必要なことありましよう。それに対しては全面的に協力をしますが、筋の通らない政治行動に対して徹底的に来年は戦っていかねばならない。私はこのように考えています。

そして私どもがこのように思うには、実はもうひとつ理由があります。なぜこんなに復旧、復興が遅いのか。もっと早くすることができないのか。どうしたら早くできるのか。私たちも一生懸命工夫してきました。しかし今、私は復興がスムーズに運ばないのには理由があると思っています。なぜか。それは民主党の被災地出身の国会議員たちに、自分たちが頑張らなければこの震災からの復興はないという使命感、自分のふるさとに対する愛情、これが決定的に欠けているからです。岩手には小沢一郎さんという人がいるじゃありませんか。小沢さんは3月11日以来、1回だって被災地、被災の現場に足を運んだことがありますか。小沢さんは岩手の選出でありながら、1回も行っていない。これが民主党の政治家の行動なのです。このようにふるさとに対する愛情がない。それは国に対しての愛情がないということです。私たち自民党は国に対する愛情、つまり愛国心。自分が生まれ育ったふるさと、自分を信頼して票を入れてくれた有権者の皆さん、この人達に責任を持つ政治を必ずやっています。

来年はもっと明るい良い年にするために、自由民主党は全力を挙げて戦います。どうか皆さまから厚いご支援をいただきますように心からお願いを申し上げまして、街頭よりのお訴えとさせていただきます。寒い中ご清聴ありがとうございました。